バリアフリーペンション

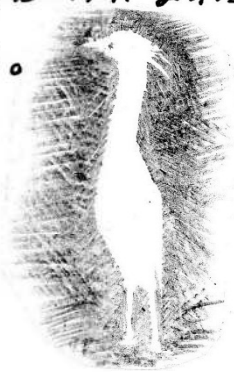
まついだ森の家通信

No.13　　２０１３・７・１

NPO 法人　まついだ森の家
〒379-0211
群馬県安中市松井田町上増田６７０
TEL／FAX０２７－３９３－０６５５

里山歳時記

隣町軽井沢からの道、この碓氷峠は中山道で京都～江戸を往き来する昔の人々は必らず関所を通らねばならなかった道です。標高差がずいぶん有って信越線が横川で切れてしまうまではこの急勾配を機関車を重連にして登った峠です。何度も曲りくねった道は特に新緑や紅葉の頃に木陰を歩くのはなかなか良いものです。途中めがね橋を見ながら温泉の有る坂本宿に出てしばらく下ると横川駅です。ちょっとなつかしい駅舎で汽線の桜が咲く頃は鉄道文化村も有るせいか人出が有ります。釜飯屋さんの横を通って東へどんどん行くとやがて松井田宿です。西松井田駅を左折して松井田城址の下をくぐる天神山トンネルをぬけると春から夏にかけて ろう梅、桐、レンギョウ、アカシヤなどの花々が次々と咲き低山にかこまれたこのあたりは水田や畑の間に川すじが２本通っていてその魚影を追って カワセミ、アオサギ、シラサギ川うなど見る事が出来ます。坂道を上って細野郵便局を右折しすぐ学校の脇を左折し下って行き２本目の川、ますだ川を渡ると森の家が有りました。こんなところに。



花アルバム

文・イラスト　石橋

福島からのメッセージ

社会福祉法人友愛会（福島県双葉郡富岡町）は平成２年に設立され、主に知的障害を持つ方々に対する地域支援を担ってきましたが、**２０１１・３・１１の原発事故により**、運営していた施設（光洋愛成園、ワークセンターさくら、サポートセンターゆうあい、リジョイスとみおか、６か所のグループホーム）すべてを失いました。被災翌日には県内三春町に一次避難、４月１５日**高崎国立のぞみの園に２次避難し現在に至っています**。

森の家とのぞみの園のかかわりは、もともとボランテイアスタッフにのぞみの園の関係者が多く、現在アロマセラピー等のボランテイアに毎週入っており、秋ののぞみフェステイバルにも出店させていただいています。また、のぞみの園の利用者さんが、余暇活動として、森の家でランチ、入浴、散歩、セラピー等をご利用してくださるようにもなりました。６月に初めてご利用いただいた友愛のスタッフ五十嵐さんに、３年目の夏を迎えようとしている今の思いをお寄せ頂きました。

「友愛会」の現状について

友愛会　光洋愛成園　　五十嵐陽介

社会福祉法人友愛会の五十嵐と申します。先日は利用者さん２名、職員２名で利用させて頂きました。落ち着いた雰囲気、美味しい料理に気持ちの良いお風呂、とてもリラックス出来て楽しい時間を過ごすことが出来ました。特に、コーンスープは絶品でした。また利用させて頂きます。大変お世話になりました。

まついだ森の家のボランテイアスタッフさんには、昨年より月に２回アロマテラピーでお世話になっており、毎回リラックスした雰囲気の中、マッサージを受けている利用者の表情はとても幸せそうです。これからも宜しくお願いします。

群馬県での避難生活も３年目に入り、群馬の「空っ風」をはじめとした気候、風土にも大分慣れ、現在は日々穏やかな生活を過ごしております。しかし、いまだ福島に帰る目途は立たっておらず、果たしていつ福島に戻れるのかといったゴールの見えない不安は尽きません。今回は、この場をお借りして、東日本大震災から３年が過ぎた今の私達の「現実」を書かせて頂きたいと思います。

当法人のある富岡町は、今年３月 25 日より「帰還困難区域」「居住制限区域」「避難指示解除準備区域」の３区域に再編され、富岡町の７割の地域は自由な一時帰宅が可能となりました。しかし、帰ることはできません。１日の宿泊すら出来ないのです。いつ安全が保障されて帰れるのか分からないのに家のメンテナンスなどやる必要があるのか。一番安らげる場所である家の中ですら線量が高く近づけない場所がある。子供への影響は。放射線の影響についてはいまだ人類が未経験であり、分からない。安全が 100％保障されなければ安心して子供を育てられない。１日何時間だけ帰っていいですよと言われて何をしろというのか。除染については、業者によって作業がまちまちであり、除染しても確実に線量がなくなるわけではない。ホットスポットは無数にある。空間線量が低くなったと言われているが、いまだ子供と妊婦は行かない方が良いと言われている。このような現状を

ふまえ、今は富岡町に戻るよりも、別の土地で暮らす方法を考えている方は少なくありません。見えないもの、経験がないものの恐怖は計り知れません。富岡町の隣の楢葉町でも同様の状況が続いています。そし

て、住宅においても、耳を澄ませば隣の家の声が聞こえてくる程の薄い壁でしきられた仮設住宅住まいをしている方が多数います。仮設住宅のある集落は、驚くほどひっそりと静まりかえっています。ある日から突然家を失い、生活の糧を奪われ、話をするにも周りに気を遣い、先の見通しも立たない。このような生活が２年以上続いているのです。知らず知らずのうちにストレスがたまっているのではないかと思われます。

当法人の利用者・職員においても上記の他、福島県から離れていることでの弊害が多々ありますが、一番は距離の問題だと思われます。群馬県高崎市と福島県富岡町は片道約300㎞あり、約４時間程かかります。震災前は頻繁に帰省していた利用者は、現在では当法人で実施する年４回の帰省に留まっている状況です。そして、震災前には住み慣れた地域で自分らしい生活を送っていたＧＨの利用者においては、現状では震災前と同様に地域資源を生かした生活を送ることは困難な状況です。職員においては、家庭の事情で夜勤明けで福島県に帰省する職員も多く、平常では当たり前に出来るはずの健康管理が難しい状況は今尚続いています。そして、何時、福島県の何処に戻れるのか見通しがつかない現状では、帰還後の住宅の確保、子供の進学等その都度直前まで決めることが出来ないといった状態になるのではと不安は尽きません。将来が見通せないということは、スタートしたがゴールが見えない状況であり、既にスタートして２年が経ちますが、私達にゴールは見えていません。走り疲れて皆が脱落してしまう前に、国、地方自治体、東京電力は何らかのゴールを見せて欲しいものです。

震災前、当法人では、障がい者支援施設である光洋愛成園で、桜のトンネルで有名な富岡町の特産品として「桜染め」商品の製作・販売を、指定障がい福祉サービス事業所（就労継続Ｂ型）であるワークセンターさくらで、こんにゃく製造、加工みそ、海苔の佃煮の製造をしておりました。昨年度より、桜染め商品の製作と加工みその製造は再開しましたが、規模は大幅に縮小せざるを得ない状況です。しかし、今は福島帰還に向けた充電期間ととらえ、帰還後は震災前以上の規模に成長できるよう利用者、職員共に頑張っております。

今後の選択肢としては、まずは福島県帰還。出来れば双葉郡に戻りたいと考えております。いつになるかは分かりませんが、今は帰還するその日が１日でも早く来ることを信じて祈るばかりです。

長々と書かせて頂きましたが、東日本大震災のような未曾有の災害の名称は忘れることはありませんが、その内容は時と共に風化していくものです。今も住み慣れた土地に帰る目途が立たず、避難生活を送っている方がたくさんいることを覚えていてほしいと思います。

帰ろうよ福島へ

頑張るぞ友愛会

頑張るぞ福島

＊アルカディア＊～横浜から来た、山の小さなパン屋さん～

高崎から妙義山に向かって車でひた走ること約 45 分。途中、人家もなくなり再び人家が見え始めたその中に、クリーム色の外壁に紺色の看板の可愛らしい建物が現れます。南には妙義山、西には浅間山、周囲は数々の木々や草花・・・これぞ正に「山の小さなパン屋さん」。

店内に入るとまず目に飛び込んでくるのは木枠製のガラスショーケース。あまりの可愛さにうっとり。その可愛いショーケースの中には、ライ麦入りのハード系なパンから、食パン・調理パン・菓子パン等、多種類のパンがお行儀よく並んでいます。無添加で体に優しいパン作りを目指し、素材選びも慎重にされていて、あんパンの餡や、店の裏の畑で採れる無農薬野菜を使った調理パンの具も全て手作り。数々のパン通も太鼓判を押す美味しさです。自家栽培のブルーベリーやラズベリーで作ったジャムも販売しています。

店内にはテーブル＆椅子があるので食べることも可能。将来はお店の南側にテラスを造りたいとのこと。山の澄んだ空気と気持ちのいい風の中で、妙義山を眺めながら焼きたてのパンとコーヒー・・・早期実現を願います。

2003 年にオープンして以来今年で 10 年目。今は旦那様と 2 人の幼いお子様と家族 4 人一丸となって切り盛りされていますが、実はこのお店、奥様がまだ旦那様と知り合う前、独身の頃に一人で開業。しかも、ご夫婦揃って横浜育ち。「何故ここに？」と誰もが思うのも当然。

ここは、今は亡き奥様のお父様が、老後の住みかにと用意してあった場所。ご両親の実家が松井田だったので、奥様も小さい頃はよく松井田に遊びに来ていたからなのか、この大自然の中での生活には抵抗がなかったそう。「この土地をこのままにしておくのはもったいない」とパン屋を始めてしまった彼女の行動力に、同年代の女性として見習うべきものがあります。

『アルカディア』とはギリシャ語で『楽園』。亡きお父様は若かりし頃、ギリシャで生活していたことがあったそうで、この店名ならお父様も喜んでくれるだろうと思い決めたそうです。素敵な店名です。

松井田に来ての感想は？と聞くと「買い物の事を考えるとかなり不便ですが、子育てにはこの不便さがいい。物が溢れている社会はあまり好きではないので。とにかく星が綺麗でいつも感動しています。」との答えに温かく素朴な人柄を感じました。そして隣では、「松井田という場所に育てられています。あとは妻が頼りです（笑）」と微笑むご主人。

ジャズ好きの奥様の目下の楽しみは、6 月に高崎に来る「小曽根真＆ゲイリー・バートンのツアーを聴きに行くこと。店内にも心地良いジャズが流れています。（児玉記）

＊アルカディア＊

群馬県安中市松井田町上増田 3291-3

Tel 027-393-5089

営業時間：9:00～18:00　定休日：月曜・火曜

（7 月～9 月はお休み）

転々‘s
コラム

書籍流　図書崩れ

土石流ならぬ書籍流、土砂崩れならぬ図書崩れは、本好きに共通する悩みです。本棚に入りきれない本が部屋中に溢れ、がらがらと崩れてくるのです。積んであるものが崩れるだけならまだしも、本の重みで床が抜けたという話もたまに聞きます。読み終えた本はかたっぱしから手放していけばそのような事態は防げるはずですが、どうしても愛着が沸いてなかなか売ったり捨てたり出来ません。「人気芸能人のお部屋公開」をテレビでやっている時に、収納術の参考にしたいと思って見ていますが、洋服だらけの部屋はあっても本だらけの部屋はないのが不思議です。イメージや仕事に関わるので内緒にしているのではないかと思います。お笑いタレントの部屋に難しい哲学書があったり、癒し系の美人女優の部屋に過激なバイオレンス小説があったりしたらファンは驚くでしょう。意外な魅力を感じる人もいるかも知れませんが･･･。

小さい頃は、本によく落書きをしていました。お話の中に入りたくて、挿絵の中に自分の姿を描き足していたのです。学校に通うようになると、教科書の隅にパラパラ漫画を描いていました。ある友人にその話をしたところ、とんでもないと言われました。彼女は、物心ついた頃から本を汚すとバチが当たるとお祖母さまに厳しく言われていたそうです。今、友人は細々ながら、プロの作家として活動しています。私はといえば…うーむ、やはり本を汚したバチが当たったのでしょうか。

友人にはさらに叱られそうですが、本をほどいてバラバラにするのも好きでした。本に落書きをしていた頃よりはだいぶのちのことですが、筒井康隆や稲垣足穂など、いろんな作家の短編小説を文庫本から切り取って集め、一冊にまとめ直して喜んでいました。気にいった作品だけ残して、あとは捨ててしまうのです。多分、自分なりのアンソロジーが作りたかったのだと思います。一人の作家による短編集よりも、いろんな作家の作品を編纂者の趣味や個性で集めたアンソロジーのほうが今でも好きなのですが、この頃からのことだったようです。

本好きは、自宅ばかりでなく、外出先でも図書崩れに遭う危険があります。どこに出かけても、気がつくと本屋に入っているからです。天井まで本で埋め尽くされた棚をうっとり見上げつつ、ここで地震があったらアウトだなとよく思います。最近はたいていの本はアマゾンで手に入るので、実店舗に行く必要はあまりないのですが、それでも、ちょっと時間があると本屋に立ち寄ってしまいます。詩集や戯曲が読みたければ〇〇書店、SF 本が揃っているのは〇〇書肆というように、小さくても特色のある本屋が好きです。アンソロジー好きの私としては、本屋自体が店主による一冊の巨大なアンソロジーになっているのが理想なのです。

旅先で本屋に入るのも楽しいです。昨今はどこに行っても普通の新刊本しか置いてないことが多いのですが、地元の郷土史家が自費出版したご当地ヒーローの伝記や、地元出身作家のサインといった珍しいお宝が並んでいることもあります。海外旅行に行った時も、気がついたら本屋にいました。現地の言葉は判らなかったけれど、よしもとばななの翻訳本が平積みされていて、なんだか嬉しかったです。

iPod が発明され、手のひらに入るほどのちいさな機械に CD 何十枚分もの音楽を入れておけるようになったように、そう遠くない将来、新しく出版される本のほとんどが電子書籍になって、人々が積み上がった本に囲まれて暮らしていた時代は終わると思います。村上春樹の新刊に多くの人が群がって社会現象を巻き起こしたのは記憶に新しいですが、きっとあれが紙媒体の本の時代の残照でしょう。淋しいですが、仕方のないことです。紙で出来た本が全部消えてなくなってしまう前に、なんとか私もプロのエッセイストになりたいです。

転々（ペンネーム）・・・名古屋市在住。物書き志望。統合失調症歴２０年

この文章に対するご感想などをお寄せください。　→　reiko-daidoji@mva.biglobe.ne.jp

こんなイベントありました

「工房あかね展」2013年２月　毎週金土日（12日間）開催

「工房あかね」は障がいを持っている人たちの芸術活動をサポートするNPO法人です。今回は、絵画と立体作品８２点の展示となりました。

元々アートの世界にはバリアなんてものはないので、私はバリアフリーアートというのには違和感があります。作品が良ければ認められる世界なので好きです。ただ作品を作りだす時にサポートが必要な方が多いので、そこをお手伝いすると素晴らしい作品になることがあります。「工房あかね」はそれを実践しています。

画：市川　和夫（聖オーガスチン教会）

固定観念に捕らわれない発想や色彩感覚は、見る者を驚かせたり、心の中に溶け行き、そのまま硬い心まで溶かしてくれる力があります。楽しい気持ちになったり、どこかから笑い声が聞こえてくるような作品や、悲しさや寂しさは共感出来るような作品です

森の家に来られる方が、そんな作品に出会える場である事も意味があるのでは？と思っています。延べ５８０人もの方にご覧いただけました。何点かご希望があれば販売もできるようになりました。展示された作品も許される期間展示して有りますので、そんな事も楽しみにお出掛けいただければ嬉しいです。

同時開催で森カフェ　ワークショップ　バザー　マッサージ等　　楽しい時を共有しました。（実行委員長　内田記）

「春市」　今年のテーマは*「そのままでOK!」*

2013年４月14日（日）

初夏を思わせるような晴天の中、春市が開催されました。
森の家を飛び出し、地域の**「細野ふるさとセンター」**での開催は去年に続き２回目。

今年も様々なショップが並び、美味しいものや素敵なものを買い物して、バザー品で掘り出し物を探し、館内では癒しのマッサージを受けて、折り紙やキャンドル作りを体験し、ステージでは和太鼓、ハーモニカ、障がい者バンドの演奏を楽しんで・・と、たくさんの笑顔が溢れていました。

そして、今回は森の家らしく「障がい理解コーナー」がとても充実。発達相談、「障がいのある子ってどんな気持ち?体験して理解しよう！」コーナー、福祉関係書籍の販売、ハンディをお持ちの方とそのご家族には無料ハンドマッサージ。お客様が次々といらして、担当者は大忙しでした。

障がいがあってもなくても、そのままでOK!!
障がいがある人もない人も、集い、交流して、一緒に楽しんだ春の１日。
この日が特別な日ではなく、日常の当たり前の１日になりますように。
（実行委員長　織茂記）

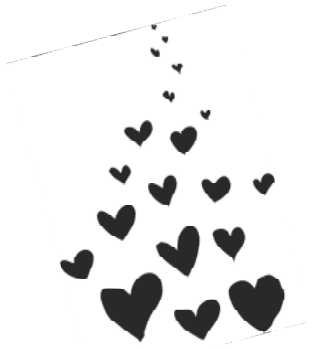
和太鼓集団**「風だまり」**コンサート　　細野ふるさとセンター　2013年6月１6日（日）

「風だまり」は、毎年森の家で太鼓合宿をしている首都圏のアマチュア和太鼓グループですが、若手実力派太鼓奏者関根まことさんの厳しい指導によりアマチュアトップを目指し、年々目覚ましい新境地を披露。地元の方々も楽しみにされています。

加藤久雄先生講演会**「心の青空を取り戻すセラピー」**2013年6月２9日（土）

現役の小学校の先生で、倉渕の山の中に「どんぐり亭」を開き、引きこもりや不登校の子供たちの心に向き合っている加藤先生の森の家での講演会は、昨年１２月に続いて２度目です。

～数ではなく、出会い。そして居場所～



ある日のワークショップにて

２月に開催された「工房あかね展」では、沢山の講師の方々のご協力により、毎日様々なワークショップを組みました。

ある日の陶芸教室、ご予約は２組。二組か～少ないかなぁ・・・そんな思いがかすめました。

参加者は保育園児２人を連れて遠く渋川市から参加された養護学校教員Ｍさんと、自閉症という障がいをもつ俊君を連れた、森の家で一緒に活動している仲間の狩野さん。

始まって早々、普段森の家では穏やかに過ごしている俊君がパニックに。粘土が嫌いな俊君。あまりコトバを持たない俊君は大声をあげ床に倒れ込む。森の家では初めての俊君の姿でした。

その姿を誰も騒がず見守っていると、少しして俊君は自分自身で立て直し半ベソかきながらも「ど、ど(粘土)」とやる意思を伝え、ちょっとニコッと笑い粘土をトントンしていました。

保育園児２人も森の家スタッフとおもちゃで遊んだり、外へ散歩に行ったりしてお母さんが作っている間の３時間近くをずっと待っていられました。

おかげで、狩野さんもＭさんも陶芸体験をしっかり楽しみ、自分の作品を作り上げて帰りました。

何故、粘土嫌いの俊君を陶芸教室に?・・・そう思われるかもしれませんが、それが狩野さんの挑戦でした。苦手なことを体験してパニックを起こすかもしれない俊君、でもそのありのままの俊君を見て、自閉症という障害を知ってもらうことへの挑戦。

「障がい児の親は、外ではいつも内心ハラハラしています。何か起こらないように引いてしまいます。
でも森の家では、ありのままを出してみてもらおう、自分の中の壁を取っ払おう。そして、さらに、
この俊との人生も学び多きやりがいのある人生であるということも知っていただけたら・・・」
その日の夜、陶芸教室を開いてくれたHagiwara art works.のはぎちゃん先生こと萩原さんからメールをいただきました。「俊君と出会えて良かった。またいつでも声かけてくださいね。これからも皆で一緒にバリアをなくして、あたたかい社会に出来る様にしていきたいですね!」

Ｍさんからもメール「普段ぴよぴよ２人連れているとモノ作りなんて集中して出来ないけど、今日は皆さんがみててくれたのでガッツリ集中して作ることが出来ました。」

そして狩野さん「今日の挑戦は私にとって価値のあるものでした。私の中では大成功です。俊の陶芸体験もハナマルです。森の家は私と俊がありのままでいられる大切な大切な場所。自分の作品作りまで楽しめるのは、森の家だからなのです。」

参加者の数ではなく、その場所とそこで出会うことの意味。それが大切なんだと改めて強く思いました。

居心地のいい場所とは・・・
「自分が居ても良い場所があることです。それは、自分の好きな物に囲まれた場所だとか、環境が整えられた場所だと思われているのかもしれませんが、僕が望む場所とは、特別なスペースのことではありません。一番大切なのは、その場所にどんな人がいるかだと僕は考えています。」(東田直樹著「続・自閉症の僕が跳びはねる理由」)
これは、障がいのあるなしに関係なくすべての人にとってそうだと思います。
自分を受け入れてくれる場所があるということ。そこで出会う人々の交流。
森の家は、そんな居心地のいい場所を目指しています。いえ、もうなっているのかもしれません。
皆さん、是非挑戦しにきてください。
ここには居場所がありますよ。

(森の家ワークショップ担当　織茂)

ボランテイア　星野さんのピザ釜作り日記

４月　ご近所の塀の脇の金網の向こうにレンガが積んであるのが見えた。「たぶんあれは耐火レンガだろう・・。」訊いてみると要らないらしい。交渉して１丁５０円で買う。２８０丁あった。火を燃やしたり、ピザの出し入れしたりの動作を、車椅子でもやり易い高さのピザ釜にしよう。

５月１０日　作業開始。まず土台作りから。軽トラを借り、河原へ石拾いに行く。大きい石・小さい石をトラックまで手で運び上げる。これがかなりつらい。次に土を掘って来て石垣を組み、中に土を入れて踏み、木で突き固める。土台が出来上がった。後は土が固まるのを待つ。翌日は雨だった。「雨降って地固まる」

５月１２日　レンガ積み作業に入る。表面にモルタルを塗り、置いて叩いて水平を取り、はみ出したモルタルを取る。これの繰り返しだ。土台、後壁、煙突、アーチへと作業が移って行く。これで４日。５日目になり、石の土台部分が狭かったので左右を広げるためにまた石拾いに行く。窯を覆うための赤土を運ぶ。赤土は粘るのだ。

５月１９日　今日は「さんぽ道プロジェクト」の日だ。午後皆んなでレンガを積み、赤土に水、セメントを加えエッチラオッチラ踏み、粘りが出たところを手で泥だんご、泥ハンバーグを作り、窯にはりつけた。皆、楽しそうにしていた。

５月２３日　いよいよ前壁だ。ピザの出入口を作り、上まで積み上げ終了。出来上がった！万歳！！
森の家を訪れる人たちに、火を燃やすのを、ピザを作るのを、焼くのを、食べるのを楽しんでほしい。

「五月晴れ、笑顔になるようレンガ積む」　（星野　和二）

６月１日　「ピザ窯開き」　ピザくまちゃんのピザを皆で頂きました。美味しい！！！
森のピザ窯は、みんなの財産。みんなで活用しましょう。ご利用は、森の家まで。

風人'S OPINION

僕のできないこと

アスペルガー症候群とは、発達障害の１つで、脳の機能や感覚・認知に偏りがあるが、知的な障害がない自閉症のこと

どうも、お久しぶりです。アスペルガー症候群の堀越です。

アスペルガーとは、自閉症の一種で、できることとできないことの差が激しいことが特徴としてあります。今回はできないことを実感することがあったので書きます。

先日リコーダーの授業がありました。「息を吹きつつ指を変えつつ楽譜を読み、さらに次の指を考える」　できないと知りつつ試みたところ普通に無理でした。些細なことと思うかもしれませんが、些細な分、できないことは多くあります。健常者からみたら怠けてるように見えるかもしれませんが、健常者にはわからない苦しみがあるのです。

続いて、実用的なアスペルガーの人との接し方です。これは、自分がアスペルガーや発達障害の人を見ていておもったことですが、周りが本人をダメにしてしまうケースがとても多いです。それは、「本人に悪気がないこと、なにが悪かったかわからないことが多いこと」を理解せずに否定してしまうことに要因があると思います。なにが悪かったかわからず叱られると、委縮し、パニックに陥り、またミスをすることにつながります。

些細なことで叱ってしまうことは、思っているより多く、こうなるリスクはどこにでもあります。アスペルガーは記憶力がいい人が多いので、一度のことが長くついてまわります。

必要なことは、感情的にしかるのではなくて、具体的に諭すことだとおもいます。

雲 門 寺 山 野 草 散 策 の ご 案 内

雲門寺は森の家の下を流れる増田川の下流にあり、慶長2年（西暦1597年）安中市上後閑長源寺16世鳳晩澗ゾク和尚が開山した龍峩山地蔵院雲門寺という曹洞宗の古刹です。

境内には先々代の奥様が花づくりを始め先代の奥様繁子さんが日本古来の山野草を茶花にするため本格的に庭づくりをはじめ境内に約300の山野草が林の自然ととけこみ心を癒やす憩い場となっています。

山野草園は奥様の管理が行き届き素晴らしい庭園ですから十分堪能できますので是非散策して下さい。また、雲門寺には2月15日の涅槃会、4月8日の誕生会をはじめ春秋の彼岸会等の行事や毎春にタンスの中の着物を着る会が薩摩琵琶を聞く会を開催しています。　　（ 小林　脩　記 ）

代表的な山野草と開花時期　　(photo　by　久住)

２月～

（園にある主な花）
スイセン
ロウバイ
フクジュソウ
（～3月上旬）
ユキワリソウ(3月)

セツブンソウ（～４月）

雲門寺　正面

６月～

（園にある主な花）
キキョウ（8月）
ハナショウブ（7月）

ヤマアジサイ（～7月）

3月～

ヒトリシズカ
カッコウソウ
ミツバツツジ
カタクリ
エンレイソウ

キクザキイチゲ

７月～

ムクゲ
ソバナ
レンゲソウマ

ヤマユリ（～8月）

花の天井絵

４月～

シラン（5月）
オキナグサ（5月）
ワスレナグサ（5月
エビネ（8月）
サクラソウ（5月）

オダマキ

８月～９月

ソバナ
ヒガンバナ

シュウメイギク（～１０月）

５月～

ボタン
ヤマオダマキ
シャクナゲ
ケマンソウ（6月）
クサタチバナ

ミヤコワスレ

本院　本堂
この天井絵は創建４００年記念事業として作製されたもので６３枚あり、境内に咲く山野草を描いたものです。

11月～12月

モミジ
クリスマスロー
（3月）

ツバキ

住所　安中市松井田町上増田624
電話　027－393－0335

こんなイベントあります

美味しい楽しい みんなの森Cafeランチ 始まりました 毎週木曜日

週替わりシェフの味　詳しくはブログまたはチラシにて

今年も 松井田夢伝　１０月２０日（日）

障がいがあってもなくても、秋の一日、松井田の町の中４キロのコースを、共に、楽しもう！
「松井田夢伝」で検索。あなたもお申し込みください。森の家もテント出店します。

映画「1/4の奇跡」上映会 と かっこちゃん講演会

１２月１日（日）　安中市文化センター

石川県の特別支援学校の**山元加津子先生**と障害児たちの交流を描くドキュメンタリー
障がい児たちが教えてくれた、宇宙を貫く「本当のこと」１／４の奇跡とは？
「病気や障害のある人たちは私たちにとってかけがえのない存在なのです。」

笹久保 伸 ＆ 青木大輔 Duo コンサート　１０月２７日（日）

ギターとサンポーニャの午後　森の家にて

編　集　後　記

☆万緑が滴る梅雨のさなか、牛が逃げたとか（「馬が逃げた」以来１０年ぶり）、イノシシに出会ったとか（これはしょっちゅう）、里山らしい話題に事欠かきませんが、水と緑と花と空と鳥の声の中にいる幸せ。この自然の中の暮らしの幸をおすそ分けいたします。お出かけください。今日も完熟梅の実と、真竹の山を前に活かしきれるか悩んでます。（その豊かな暮らしを奪われた福島の悲しみ・・・）（Ｔ）

☆編集委員をやり始めて、４回目が終わりました。段取りが少しは分かりかけて来たように思います。全く分からないことから卒業すると、今度は皆さんの反応が気になり出しました。ご意見をお寄せ下さい。（Y）

☆今回の通信は編集委員がそれぞれ担当を持ち、最終編集に回すというスタイルが出来て来たように思います。リアルタイム発信が盛んになる中で、森の家くらいはこんなスローペース発信も面白いと思うこの頃です。　（U）

☆いつも森の家で、元気と自信・素敵な出会いを頂けて感謝しています。そのおかげで、神経内科に通うより、ここに通うほうが薬になるように思います。
今回から委員に加えて頂き嬉しい限りです。これからよろしくお願いします。　（笹とも）

☆今年はじめて春市に出店しました。出店経験２回目！始終ドタバタ、冷や汗の滝。それはそれで楽しいのだけれど、もう少しリラックスして全体を楽しめるといいなと思いました。森を流れるゆったりとした「とき」を、もっともっと感じるといいのかもしれませんね。（Ｒ）

☆文章を書くことを極力避けてきた人生だったので、仕上げるまでにかなりの時間と体力を要しましたが、アルカディアさんという素敵なパン屋さんと出会えました。森の家通信に感謝！（Ｋ）

事務局だより

２０１３年度が始まりました。創業から１８年目、ＮＰＯ法人となってから７年目に入ります。

昨年度は、宿泊施設としての営業実績は赤字ですが、応援団会員の皆様のご支援により、全体としてはわずかに黒字、修繕に備えて多少の積み立てもすることができました。

今年度は、創業以来のメンバーの退職も予定されており、後継者の問題が大きく浮上しております。世代交代がスムースに行きますよう、努力してまいります。

障害者割引をはじめました

かねてより導入したい気持ちはありましたが、採算的に難しいと考えていました。今回、障がいのある方々のお役にたつ一つの社会資源として意思表示をしたいということで、理事会、総会の同意を得て、踏み切りました。ご本人のみですが、１，０００円を割り引きさせて頂きます。どうぞご利用ください。

福島からの障がい者受け入れ３年目

まついだ森の家では、東北大震災後すぐから、福島県の原発被災された障害のある方とそのご家族・支援者に対し、宿泊費半額での受け入れを実施してきました。初年度、福島市内の養護学校生とそのご家族に夏休み１０泊のご利用をいただき、去年もご本人の希望で再訪、今年も予定されています。滞在中はボランティア体制を組み、思い切り体を動かしていただき共に楽しむプログラムを実施。

今も線量の下がらぬ地域で子供たちの健康を心配しながら暮らさざるを得ないご家族に、少しでも心休まる場所を提供したいと思うものです。

デイユース　福祉施設からの余暇活動の場としてのご利用

一般の場所の利用がしにくい方々に寛いでいただける場としてのご利用が増えてきました。ゆっくり貸切でランチ、ハーブのお風呂、散歩、そしてアロママッサージなどオプションもご用意できます。刻み食、ミキサー食等にも対応いたします。どうぞお問い合わせの上、ご利用ください。

以上３点の実施事項は、いずれも、企業としては成り立ちにくいプランであり、ＮＰＯとして皆様からのご支援をいただいている森の家ならではのチャレンジと考えております。

今後も、有用な社会資源の１つとして、社会的に認知され活用される方向を目指してまいります。

皆様のご支援、ご協力、ご意見を、心よりお願いいたします。

＊＊

２０１３年5月２６日　理事会及び総会開催

２０１２年度事業報告・決算、２０１３年度事業計画・予算が承認されました。

また、今年度役員として、次の方々が選出されました。

黒羽知代（理事長）小林　脩（副理事長）、木下美幸、石橋與子、堀越美妃、吉井貴志（以上理事再任）、内田康子、狩野洋子、上泉歩、（以上理事新任）　星野和二（監事新任）

森の家事務局より　お願い

先に、通信紙上でもお伝えいたしましたように、森の家は、ＮＰＯ法人として、障がいのある方々とその支援者に対し必要とされるサービスを提供して参りました。

そのために、経営的には赤字となっており、それに対する会員の皆様のご支援により、今日まで運営されております。

この点につきましてのご理解を賜りました上で、今年度並びに、昨年度未納分の会費納入をよろしくお願い申し上げます。

（万が一、事務処理上の間違いがありましたら、お許しください。

ご連絡いただけましたら幸いです）

会員の皆様へ

いつもご支援ありがとうございます。
今年度も、引き続き会員の更新をお願いする季節となりました。
同封の振込用紙にて、よろしくお願いいたします。
（納入済みの方には用紙はお入れしておりません）
＊過年度の会費のお振込みがまだの方もよろしくお願いいたします。
なお、事務処理上、行き違い等ございましたらお許しください。
ご不明の点は、事務局までご連絡いただけましたら幸いです。

０２７－３９３－０６５５

まついだ森の家　ご紹介

◎ ホームページＵＲＬ　http://www.normanet.ne.jp/~morinoie/
「まついだ森の家」で検索してください
ホームページトップから、ブログをごらんになれます。

◎ ブログＵＲＬ　http://matsuidamorinoie.gunmablog.net./
「*まついだ森*の家里山*日記*.」で検索してください

◎ Ｅ-mail　matsuida-morinoie-2007-npo@amber.plala.or.jp

まついだ森の家応援団会員　いつでも募集中！

ＮＰＯ法人まついだ森の家は、二つの柱を立てて活動しています

＊　いろいろなハンディをお持ちの方とその支援者に対して
気兼ねなく泊まれる宿と、交流の場を提供する。

＊　里山の豊かな自然環境を発信していく。

その存在を応援してくださる方々が「応援団会員」です。

年会費は　１０，０００円、３，０００円、１，０００円　です。

「まついだ森の家通信」年２回と、各種イベントのご案内をお送りいたします。よろしくご支援ください。

お振込先　**ゆうちょ銀行**　口座番号　００１００－９－６３１７１０
加入者名　**ＮＰＯ法人まついだ森の家**